
緋弾のアリア ダブルS

ZeroSF

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

緋弾のアリア ダブルS

【Nコード】

N9123Y

【作者名】

Z e r o S F

【あらすじ】

緋弾のアリアの二次創作です。

ちよつと色々なことに挑戦していきたいです。

あまりうまくは無いですがよろしくお願いします。

弾籠め（前書き）

よろしく願います。

弾籠め

俺は少し特殊な流派の剣術をしている以外は、普通の高校生だった。そんなあるとき俺は死んだ。

死因は覚えてない、よくある交通事故かもしれないし、病気で死んだかもしれない。

それすら覚えていないし、覚えていなくてよかったと思える。だって誰だって自分の死ぬ姿なんか覚えておきたくないだろ？なんでこんなことを言っているのかと言うと、生きていたから。

勘違いしないで欲しい。

別に死んだのだって覚えているし、神様に会ったわけでもない。なのに、俺は生きている。

続に言う転生と言う奴らしい。

正直なんでしたかなんて知らないしこれから先、知ることもないだろう。

別にかまわないが。

正直当時は、残した家族のことを心配したが、今ではもう、合う事が出来ない、割り切っている。

親友がいて、悪友ができ一部の事以外は普通の高校生活を送れているからな。

さて、そろそろ学校に行く準備をしますか。

ひしたつや
火紫竜夜16歳 武偵校所属

元気にやっています。

？弾（前書き）

良ければ感想などをください。
励みになるんで。

ではどうぞ。

？
弾

俺が朝起きて学校に行く準備をしていると

……ピン、ポーン

と玄関のベルが鳴った

この時間で来るのは一人しかいないでその人間の目的の奴は現在俺の2段ベットの下で熟睡してやがる。……トランクス1丁で……

「おいキンジ起きろ」

とルームメイトで親友の遠山キンジを俺は優しくストレートを一発入れて起こしてやった。

「ぐっは」

と目を開いて起きるキンジ

うんいいことをした。

「た、竜夜、どういっつもりなんだ」

「白雪は俺がどうにかするからとっとと服を着ろ」

「へっ……すまん助かる!!」

と、ようやく自分の状態に気が付いたのか着替え始めたキンジを確認して俺は玄関で待つ人のもとに向かった。

玄関の扉を開くと案の定いた。

星伽白雪、俺の通う武偵高の生徒会長でその他複数の部長をしている意味すごい奴だ

「あ、キン……竜夜君か」

あからさまに落ち込むことはないだろ。

ちなみにキンジの幼馴染でキンジに惚れている

「悪いなキンジじゃなくて、まああがれよ」

と白雪を中に招き入れる。

と同時にワイシャツはおり制服のズボンはいたキンジが部屋から出てきた。

「キンちゃん！」

キンジの姿を確認して白雪は、ぱあつと顔を明るくした。
やっぱり俺の時と反応が違いすぎるなまあ、慣れたが

「その呼び方やめろって言っただろ」

キンジやっぱり俺はお前を殴りたい

白雪はその後一人でいろいろ言っただけに見る間に蒼白になっていた。
そして俺は

「だまれリア中」

「違う!!」

キンジが何か言っているが無視だ無視!

「とりあえず白雪何か用があつて来たんじゃないのか?」

と、思い出したように

「う、うん昨日まで伊勢神宮に合宿で行つてて……キンちゃんのお世話、なんにもできなかったから」

まあ、とりあえず

「とりあえず俺はもういくわ」

おじやま虫は退散しますか

「ちょ竜夜!!」

キンジが後ろで何かいつてるが気にせず俺は武偵校に向かった

込み合うバスが嫌で俺はいつも歩いてかバイクで登校しているが今日はガソリンが後わずかなので歩いて登校することにした。

武偵高に向かう道をコンビニで買ったおにぎりを食いながら俺はふとこの世界に来て17年たったんだと思つた

この世界には武偵と言う物たちがいる。

俺の親友であるキンジから言わせれば便利屋だそうだが。

武偵にも色々あり強襲科、狙撃科、諜報科、尋問科、通信科、情報

インクスタ
科、探偵科、鑑識科、装備科、車輛科、衛生科、救護科、超能力捜
レミア
査研究科（SSR）特殊捜査研究科（CVR）、教務科、一般教科
マスターズ
などがある。
ノルマルレ

ちなみに俺は強襲科でSランクだ。

ランクはAから始まりA、B、C、D、EでAが一番強くAより強いものがSランクになる。

キンジは入学時は強襲科でSランクだったが今は探偵科のEランクだ。

能力を使えばあいつ（キンジ）はSランクにもなれるんだが発動条件が条件だし、まあキンジにも色々あってそれが関係しているんだが。

強襲科は命の危険が多いがその分いろんな任務がある。

俺は探偵科でもSランクで実際に殺人事件を解いたりもしているんだがやっぱり本業は強襲科だが。

一応鍛えてるおかげで剣術に関しては負けたことがないしSEEDを発動したらチートって言える、まあキンジもあれを発動したら同じようなもんだが

と考えていたらいつの間にか武偵高についていた

俺はこの時知らなかったが今日から完全なる非日常になることになる将来「緋弾のエリア」と呼ばれる事になる神崎・H・エリアと俺の親友である遠山キンジの会合の日だとは思ってもしなかった。

？弾（後書き）

楽しめましたか？

次回は明日にはするつもりです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9123y/>

緋弾のアリア ダブルS

2011年11月27日11時56分発行